

I 令和4年度（一社）美しい伊豆創造センター事業報告

1. 会議等の開催に関する事項

○総会の開催

6月27日（月） 第6回（一社）美しい伊豆創造センター一定時社員総会（修善寺総合会館）

議案第1号 令和3年度（一社）美しい伊豆創造センター事業報告及び計算書類の承認について

議案第2号 （一社）美しい伊豆創造センター理事の改選について

報告第1号 令和4年度（一社）美しい伊豆創造センター事業計画及び収支予算について

○理事会の開催

6月10日（金） （一社）美しい伊豆創造センター理事会（書面決議）

議案第1号 （一社）美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について

議案第2号 （一社）美しい伊豆創造センター理事の推薦について

議案第3号 （一社）美しい伊豆創造センター理事候補について

議案第4号 令和3年度（一社）美しい伊豆創造センター事業報告及び計算書類の承認について

議案第5号 財産の譲受について

議案第6号 （一社）美しい伊豆創造センター一定時社員総会の開催について

報告第1号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の報告について

報告第2号 令和3年度伊豆半島ジオパーク協議会に係る事業報告、決算報告及び残余金の報告について

6月27日（月） （一社）美しい伊豆創造センター臨時理事会（修善寺総合会館）

議案第1号 （一社）美しい伊豆創造センター代表理事の選定について

議案第2号 （一社）美しい伊豆創造センター副会長及び業務執行理事の選定について

議案第3号 （一社）美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について

報告第1号 （一社）美しい伊豆創造センター ジオパーク委員会構成員名簿について

報告第2号 （一社）美しい伊豆創造センター ジオパーク委員会委員長及び副委員長の選出について

12月22日（木） （一社）美しい伊豆創造センター理事会（修善寺総合会館）

議案第1号 （一社）美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について

議案第2号 （一社）美しい伊豆創造センター組織規則及び委員会規程の改正について

議案第3号 一般法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の承認について

報告第1号 （一社）美しい伊豆創造センター 企画運営委員会副委員長の選出について

報告第2号 令和4年度（一社）美しい伊豆創造センター事業経過報告について

報告第3号 令和4年度（一社）美しい伊豆創造センター収支予算の変更について

協議第1号 ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業について

協議第2号 令和5年度（一社）美しい伊豆創造センター事業計画（案）について

令和5年度（一社）美しい伊豆創造センター市町負担金（案）について

令和5年度（一社）美しい伊豆創造センター収支予算（案）について

3月28日(火) (一社)美しい伊豆創造センター理事会(修善寺総合会館)

- 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について
- 議案第2号 ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業について
- 議案第3号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業計画(案)について
令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター収支予算(案)について
- 議案第4号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引について
- 協議第1号 東アジア文化都市事業「伊豆文学祭(仮称)」について(案)
- 協議第2号 デジタル田園都市関連事業について

○委員会の開催

5月31日(火) (一社)美しい伊豆創造センター企画運営委員会(修善寺総合会館)

- 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について
- 議案第2号 (一社)美しい伊豆創造センター理事の推薦について
- 議案第3号 (一社)美しい伊豆創造センター理事候補について
- 議案第4号 令和3年度(一社)美しい伊豆創造センター事業報告及び計算書類の承認について
- 議案第5号 財産の譲受について
- 議案第6号 (一社)美しい伊豆創造センター一定時社員総会の開催について
- 報告第1号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の報告について
- 報告第2号 令和3年度伊豆半島ジオパーク協議会に係る事業報告、決算報告及び残余金の報告について

12月9日(金) (一社)美しい伊豆創造センター企画運営委員会(函南町役場)

- 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター入会申込書の許否について
- 議案第2号 (一社)美しい伊豆創造センター広域観光事業委員会の名称及び所管事項の変更について
- 議案第3号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の変更について
- 報告第1号 (一社)美しい伊豆創造センター 企画運営委員会副委員長の選任について
- 報告第2号 令和4年度(一社)美しい伊豆創造センター事業経過報告について
- 報告第3号 令和4年度(一社)美しい伊豆創造センター収支予算の変更について
- 協議第1号 ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業について
- 協議第2号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業計画(案)について
令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター市町負担金(案)について
令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター収支予算(案)について

3月20日(月) (一社)美しい伊豆創造センター企画運営委員会(修善寺総合会館)

- 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について
- 議案第2号 ジオリゾート伊豆ブランディング推進事業について
- 議案第3号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業計画(案)について
令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター収支予算(案)について
- 議案第4号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引について
- 協議第1号 東アジア文化都市事業「伊豆文学祭(仮称)」について
- 協議第2号 デジタル田園都市関連事業について

12月8日(木) (一社)美しい伊豆創造センター広域観光事業委員会(修善寺総合会館)

議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター組織規則及び委員会規程の改正について

報告第1号 令和4年度(一社)美しい伊豆創造センター事業経過報告について

報告第2号 令和4年度(一社)美しい伊豆創造センター収支予算の変更について

協議第1号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業計画(案)及び収支予算(案)について

3月7日(火) (一社)美しい伊豆創造センター観光・地域振興委員会(修善寺総合会館)

報告第1号 令和4年度(一社)美しい伊豆創造センター事業経過報告について

協議第1号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター事業計画(案)について

協議第2号 令和5年度(一社)美しい伊豆創造センター収支予算(案)について

6月22日(水) (一社)美しい伊豆創造センター第1回ジオパーク委員会(修善寺総合会館)

報告事項 ① (一社)美しい伊豆創造センターの組織・経営理念について

② ユネスコ世界ジオパーク活動と再認定審査について

③ 令和4年度ジオパーク関連事業計画及び予算について

協議事項 委員長、副委員長の選任について

12月8日(木) (一社)美しい伊豆創造センター第2回ジオパーク委員会(修善寺総合会館)

報告事項 ① 令和4年度ジオパーク関係事業報告について

② ユネスコ世界ジオパーク再認定審査について(御礼と報告)

協議事項 令和5年度事業計画について

2月13日(月) (一社)美しい伊豆創造センター第3回ジオパーク委員会(修善寺総合会館)

報告事項 ① 令和4年度ジオ部関係事業報告と決算見込み報告

② ユネスコから通知を受けた再認定審査結果の対応について

協議事項 令和5年度ジオ部関係計画案と予算案について

ロゲイニング大会開催地について

6月28日(火) 第1回大型観光キャンペーン推進協議会 伊豆地域会議(広域観光事業委員会 実務担当者会議)(修善寺総合会館)

報告事項 ① 令和3年度静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議決算並びに収入支出決算の審議について

② 令和4年度静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議予算について

③ 今後の事業・スケジュールについて

11月14日(月) 第2回大型観光キャンペーン推進協議会 伊豆地域会議(広域観光事業委員会 実務担当者会議)(修善寺総合会館)

報告事項 ① 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議の令和4年度事業実績及び今後の予定について

② (一社)美しい伊豆創造センター令和4年度観光事業の中間報告について

③ 地域振興及びインバウンド推進について

2月28日(火) 第3回大型観光キャンペーン推進協議会 伊豆地域会議(観光・地域振興委員会 実務担当者会議)(修善寺総合会館)

- 報告事項 ① 令和4年度収支状況(決算)並びに収入支出決算の審査について
② 令和5年度収支予算(案)について
③ 令和4年度事業実績及び今後の予定について

2. 伊豆半島観光戦略推進(DMO)事業に関する事項

(1)「ジオリゾート伊豆」ブランディング推進事業

○事業概要及び目的等

伊豆半島ジオパーク推進協議会との統合を踏まえ、ジオパークの恩恵を最大限に活用し来訪者と生活者の満足度向上に貢献するための取組を展開するため、組織の根幹となる経営理念及び中期活動方針等を策定する。また、静岡県と連携し、持続可能な観光コンテンツの強化を図るため、ジオガイドモニターツアー等を実施する。

○事業実施状況

①「ジオリゾート伊豆」ブランディング推進事業

経営理念及びブランドスローガンを決定し、これに基づいた重点戦略等について策定した。

項目	概要
「ジオリゾート伊豆」ブランディング推進事業	経営理念「ジオパークを舞台に来訪者と生活者の満足度向上に貢献し、美しい伊豆半島の持続的成長を創造する。」及びブランドスローガン「ジオの恵み 住む人来る人に」を策定した。また、これまでの取組の実施状況について評価の上、経営理念に基づいた重点戦略(①持続可能な観光の振興②ジオパークの保全、教育並びに持続可能な発展③地域振興を通じた生活者の満足度向上)を策定した。さらに、持続的な観光の振興において「ジオリゾート伊豆」をキーワードに各種取組を推進していくこととした。
防災減災啓発事業	公益社団法人 日本観光振興協会との共催で、外部から専門家を招き、「観光事業者向けのBCP(事業継続計画)作成セミナー」を開催した。当日は、宿泊事業者、観光関係事業者、交通事業者、金融機関など12社が参加し、災害・危機による自社事業への影響の想定、危機発生時の事業継続のための対応、事業継続に必要な資金の調達等に関する講義を受けた。(1/27)

②サステナブルツーリズム事業

既存のジオツーリズムにおいて、ファンとリピーターを拡大のため、認定ジオガイドの育成や公共交通機関との連携をテーマにしたガイド研修を実施し、関係者によるワークショップを通してツアー造成につなげた。

項目	概要
第1回ワークショップ	伊豆半島ジオガイド協会が策定したジオツアーと公共交通機関を繋いだモニターツアー造成を目的にワークショップを開催した。ワークショップには伊豆箱根バス株式会社、東海自動車株式会社及び伊豆半島ジオガイド協会が出席して計16ツアー造成した。(10/4)
モニターツアーの実施	各モニターツアーでは、認定ジオガイドと令和4年度ジオガイド養成講座受講者を対象としたツアーを実施した。また、ツアー参加者にはコースの磨き上げとガイド技術向上の施策に向けたアンケートを実施した。(12/5～全12回実施)
おもてなしジオガイド実施研修	リピーター率と顧客満足度の高い伊豆大島で活動しているジオガイドから、持続的なおもてなしについて指導を受け、参加したガイドの資質向上を図った。(2/8～2/9)
ジオガイド評価認証制度に向けた検討会の実施	事業全体の評価および改善点と今後の方向性を協議し、おもてなしやコミュニケーション能力向上に向け、ジオガイド評価認証制度の検討をした。(2/10)

③人材育成の研修会の実施事業

観光人材育成のため、県内の大学のオムニバス講義に出講した。

事業名	概要
静岡県立大学全学共通科目	・「伊豆半島から見たしずおか」をテーマに、伊豆半島の歴史を踏まえ現況を把握し、ジオパークをツールとした持続可能な観光素材の開発について講演(5/18)
日本大学国際関係学部講座「伊豆観光文化論2022」他	・「伊豆半島ユネスコ世界ジオパークによる持続可能な開発」をテーマに伊豆半島の成り立ち、ジオパークの取り組みについて講演(9/28) ・「伊豆半島の観光動向と美しい伊豆創造センターの取組み」をテーマに、伊豆への来訪者の変化やDMOとしての役割について講演(10/5) ・放送大学静岡学習センター公開講座「21世紀の文化遺産論」での講演(2/12)

○評価と改善

- ・令和4年度は、伊豆半島ジオパーク推進協議会との統合により、新たな経営理念やブランドスローガンを策定するとともに、重点戦略(①持続的な観光振興②ジオパークの保全・教育③地域振興を通じた生活者満足度向上)を策定した。今後は、これらの3つ施策の相乗効果を最大限発揮できるような取組を推進していく。こうした取組の一環として、サステナブルツーリズム事業においてジオガイドのおもてなしや公共交通の利用を意識したジオツアーを検討し、美伊豆主催の地域の物産展において地域の魅力発信や誘客とともにジオパークの活動を紹介するなど「観光×ジオ×地域振興」の取組を行った

ところであり、認知度の向上や、ジオガイドのスキルアップには一定の効果があったため、今後、更に推進していく。

- ・観光地域づくり法人として、また、伊豆半島グランドデザインの推進組織として、観光関係者、商工会議所、商工会、交通事業者、宿泊事業者など多種多様な関係者と情報共有や連携し、経営理念やブランドスローガン、重点戦略に即した取組を推進していく。
- ・サステナブルツーリズム事業については、前述のとおりジオパークのさらなる持続的発展に向けた取組として、環境に配慮したジオガイドツアーのコース造成とジオガイドのおもてなし技術の向上を図り、来訪者へ向けたジオパークの魅力拡大を目指した。この結果、ジオガイドのスキルアップには、人々の暮らしを伝えるインタープリターの技術や分かりやすい説明、参加者目線（客目線）からの気づきなど一定の効果があった。

また、ジオガイド評価認証制度検討の結果、ジオガイドの個々の資質によって階級制や優劣を付けるのではなく、お客様アンケートを実施してこれをフィードバックする等、おもてなしのスキルアップ向上に向けた取り組みを推進する方向で伊豆半島ジオガイド協会と進めるとともに、静岡県観光商品シートに造成したツアーを掲載し、旅行会社へ向けてジオガイドツアーの販売促進を行うほか、伊豆半島ジオガイド協会のホームページにおいてもツアーを紹介するなど、販売チャネルを増やしてしていく。

ODMO としての KPI の設定について

(1) 令和3年度のDMOの目標達成度評価

実績・目標・対比 KPI項目	①令和3年度 (2021年度) 実績	②目 標 (KPI)	目標比	③前年度実績	前年度比
旅行消費額	186,539百万	299,050百万	62.4%	147,139百万	126.8%
延べ宿泊者数	6,953千人	11,322千人	61.4%	5,875千人	118.3%
来訪者満足度	98.8%	98.0%	+0.8%	98.1%	+0.7%
リピーター率	74.4%	67.0%	+7.4%	68.6%	+5.8%
Webサイト	34,605PV/月	80,000PV/月	43.3%	27,343PV/月	126.6%
観光入込客数	26,168千人	46,463千人	56.3%	23,066千人	113.4%

●旅行消費額

算出根拠である延べ宿泊数および観光入込客数が前年に対して増加した。また、日帰り客の一人当たりの消費単価は若干減少したが、宿泊客の一人当たりの消費単価が増加し、結果的に前年度比126.8%となった。

●延べ宿泊者数

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、8月～11月においては、前年に対して減少したが、4月～7月および12月～3月において前年に対して増加した結果、年間を通して、前年度比118.3%となった。

●来訪者満足度

「大変満足」の割合については、前年度対比で減少しているが、「ほぼ満足」の割合が前年度対比で増加し、全体としては、前年度比で0.7ポイント増加した。項目別では、「観

光地の魅力や特徴」、「観光地の自然・景観」、「食の魅力」の項目が減少している。

●リピーター率

前年に対して、1回目、2回目の来訪者が減少し、3回目、4回目以上の来訪者の割合が増加した結果、全体のリピーター率は前年度比5.8ポイント増加した。

●Webサイトアクセス数

夏季を除き年間を通してアクセス数が前年度比126.6%増加した。

●観光入込客数

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、8月～11月においては、前年に対して減少したが、4月～7月および12月～3月において前年に対して増加した結果、年間を通して、前年度比113.4%となった。

(2) 令和4年度(2022年度)～令和7年度(2025年度)の設定KPIについて

上記を踏まえ、令和5年度(2023年度)以降のDMOとしてのKPI設定を行った。

年度 KPI	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度
旅行消費額	215,131百万	249,339百万	284,356百万	320,211百万
延べ宿泊者数	8,295千人	9,505千人	10,715千人	11,925千人
来訪者満足度	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
リピーター率	67.0%	67.0%	67.0%	67.0%
Webサイト	90,000 PV/月	35,000 PV/月	55,000 PV/月	80,000 PV/月
観光入込客数	32,662千人	37,460千人	42,258千人	47,056千人
住民満足度① (観光客の受け入れに前向きである住民の割合)	-	65%	66%	67%
住民満足度② (住む地域に対して誇りや愛着を持っている住民の割合)	-	88%	89%	90%

(2) 観光総合開発事業

○事業概要及び目的等

伊豆半島の新しい観光テーマの創出や流通促進を図るため、特定のテーマに即した観光コンテンツをターゲットに響くように企画・商品化する取組を実施する。

○事業実施状況

①観光コンテンツ商品開発事業

伊豆半島ジオパークを中心とした地域の魅力的なコンテンツを活用した商品(プログラム)開発を行い、消費の受け皿づくりを進める。本年度は、教育旅行向けプログラムに特化した事業を実施した。

項目	概要
伊豆半島ジオパーク 夏合宿の誘致	首都圏の地学部のある高校・中学校へ伊豆半島ジオパークへの夏合宿誘致を目的とした情報発信を実施した。発信先：93校
「伊豆半島×探求」	高校生向け伊豆の教育旅行で使用する探求学習教材を制作した。

教育旅行教材制作	<ul style="list-style-type: none"> ・制作物：生徒用学習ノート、教師用テキスト AGT 用セールス資料 ・制作した教育旅行教材を旅行エージェント等に配布し、教育旅行の誘致に向けたセールスに活用した。
----------	--

②観光事業者採用支援事業

首都圏の優秀な若手人材の確保を目的とし、東京都内において伊豆半島ホテル温泉旅館合同会社説明会を開催した。また、インターンシップ受け入れについて県内及び首都圏の学校、関係団体と伊豆半島宿泊事業者との調整を行った。

事業名	概要
伊豆半島ホテル温泉旅館合同会社説明会	<p>東京都内において対面での説明会を開催した。</p> <p>日 程：令和5年2月9日(木)</p> <p>会 場：東京都立産業貿易センター台東館4階</p> <p>出展事業者：16社</p> <p>対 象：令和6年3月卒業予定の大学生、短大生、専門学校生</p> <p>来場学生：18校37名、ブース延べ来場数165名</p>
インターンシップのマッチング	<p>県内及び首都圏の学校、関係団体より希望があり、下記のとおり伊豆半島宿泊事業者との調整を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松未来総合専門学校 インターンシップ <p>8～9月にインターンシップを実施。宿泊事業者3社が令和6年3月卒業予定の学生を受け入れた。</p> <p>参加学生：5名、内定：2名</p> <p>受け入れ宿泊事業者 熱海市1社、伊豆市1社、東伊豆町1社</p>

③デジタルマーケティング推進事業

デジタルマーケティングの視点を取り入れた調査を実施した。

項目	概要
観光客動態調査	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県データ分析プラットフォームを活用した観光客動態調査 ・アンケートフォームを作成し、2月中に観光客動態調査を実施し、来訪前後の観光消費額の変化や泊食分離に関する意識調査を実施した。(サンプル数：約1,500件)

④ワーケーション推進事業

伊豆半島のワーケーション推進のため、ワーケーションが可能であるフリーランスや個人にアンケート調査を実施した。

項目	概要
ワーケーション推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に実施した伊豆半島内のワーケーションの現状調査結果を市町にフィードバックし情報共有を図った。(7月) ・令和4年度については、2月にフリーランス協会の協力のもとフリーランス760名に対するワーケーションの実施状況に関する

	<p>るアンケート調査を実施し、3月に観光・地域振興委員会において調査の分析結果について報告した。</p>
--	---

○評価と改善

- ・観光コンテンツ開発事業については、高校生向けの学習ノートを24,000部作成し、教育旅行を扱う旅行会社150社に対して資料を送付した。令和5年度においては、さらなる誘致に向けたセールスと伊豆半島内での受け入れ施設への説明、参画を促していく。
- ・伊豆半島ホテル温泉旅館合同会社説明会については、旅館ホテルの人手不足が深刻な状況の中、昨年より多い16社の旅館ホテルの皆さまに出店いただき開催した。しかしながら来場した学生は37名、延べ人数165名となり、厳しい結果となった。令和5年度は、できるだけ早い時期に観光系学科のある大学・専門学校の就職担当者やホテル、旅館等と情報交換を行うなど連絡を密にすることで、効果的なイベント開催告知や事業展開となるように日ごろから準備を進める。
- ・デジタルマーケティング推進事業については、将来的な観光消費額の増加を図るための基礎資料を収集することを目的として、2月に来遊者を対象としたデジタルアンケートを実施した。食事（海鮮）、施設入場（観光施設等）、土産（水産物：生鮮食品）において、来訪前後の予算額に目立ったギャップ（機会損失）が見られる結果が得られた。令和5年度の実施にあたっては、調査期間を延長し、年間を通じてサンプルを収集することを検討していく。
- ・ワーケーション推進事業については、一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会の協力のもと760名のフリーランスの方のワーケーションに対する意識をした。この結果、伊豆地域のワーケーションに対して魅力を感じる理由として、居住地からの距離、温泉や海の幸、気候などがあり、家族と行くワーケーションにも一定数のニーズがあること等が分析できた。令和5年度については、令和4年度に実施したフリーランスの方に対するアンケート結果を踏まえ、伊豆半島ならではのワーケーションの提案など、利用者に訴求力のある情報発信をホームページの更新等により推進する。

（3）伊豆半島サイクルフレンドリー事業

○事業概要及び目的等

「サイクリングリゾート伊豆」ブランドの定着に向け、サイクリングイベント開催を活用した観光PR等により、伊豆の魅力在全国に発信するとともに、伊豆半島内の関係者に対し、計画推進の意義や効果、地域資源の魅力の再発見等の浸透を図っている。

○事業実施状況

①サイクリングリゾート伊豆PR事業

伊豆半島でのアクティビティであり、観光施設を訪れるための二次交通としてのサイクリングをPRし普及させるため、伊豆観光公式サイトB-IZUと並列してサイクリングに特化したWEBページを制作し情報発信を実施した。併せて、サイクリストがコースの情報を求めて集まるイベントに参加し、伊豆のPRを行った。

項目	概要
サイクリングリゾート伊豆 HP 制作	レンタサイクルが可能なスポットとそこからのモデルコースを提案する「サイクリングリゾート伊豆」の HP を立ち上げた。
イベントへの出展	<p>4月2日、3日に東京ビッグサイトで開催された日本最大級のサイクリングイベントであるサイクルモードの静岡県ブースに出展し、コースを探すサイクリストに対して伊豆の PR を行った。 (2日間で20,000人が来場)</p> <p>令和5年3月18日、19日に名古屋イオンモールで開催された東海エリア最大の自転車イベントであるサイクルスポーツデイズに出展し、伊豆半島の魅力についてPRを行った。(2日間で40,000人が来場)</p>

②伊豆半島一周サイクリング開催事業

サイクリスト向けに伊豆半島一周 240km を走行するコースを造成し、「ツールド」というアプリに登録のうえ、サイクルボール(期間型イベント)に参画した。

項目	概要
サイクルボール「伊豆いち」	<p>今年度で3回目となる期間型サイクリングイベントに参画した。</p> <p>参加者数：360人(期間4月29日～12月27日)</p>
サイクルボール優待店制度導入	サイクリストに向けて地域の特色ある事業者のもとでの消費を喚起するために、サイクルボール参加者に店舗独自の優待を実施。現在4店舗が登録。

③E-bike の聖地化推進事業

E-bike を活用した観光プロモーション動画の作成や旅行商品の販売を実施した。

項目	概要
E-bike を活用した観光プロモーション動画制作	公共交通機関を使って訪れた方がE-bike(電動アシスト付き自転車)を活用して伊豆半島の絶景や食、観光施設を楽しむ動画(VLOG)を制作し、YouTubeで動画を公開した。(12月)
E-bike を活用した旅行商品造成 (西伊豆エリアの戸田をE-bikeで走るサイクリングツアーを企画造成)	<p>・8月1日にメディア向けモニターツアーを行い、PRと併せてHISから一般向け旅行商品の販売を実施した。</p> <p>【メディア向けモニターツアー参加者】 藤木由貴(タレント)、E-bike Japan、ラルート(WEBメディア)、JR東日本(公共交通機関)</p> <p>(開催日と参加人数) 9月3日：3名、11月3日：9名、12月4日：4名</p>

④サイクリングエリア交流事業

サイクリング先進地である台湾とのサイクリストの相互交流を目的に動画を制作した。

項目	概要
台湾のインフルエンサーによる動画撮影	台湾で知名度の高いインフルエンサーの Jerry 哲睿を起用し、メリダジャパンとの共同事業として、観光で訪れた伊豆半島でレンタサイクルを体験するという動画を制作した。(2月)

○評価と改善

- ・東京 2020 オリンピック自転車競技大会が開催された伊豆は、サイクリストの認知度は高いが、起伏に富んだ地形は未経験な方に敷居が高いという印象があるため、自転車を気軽に楽しめるイメージ戦略が課題となっている。そのため、令和4年度は人気インフルエンサーを起用した動画配信を実施するとともに、サイクリングリゾート伊豆のHPを活用し、レンタサイクルの情報を併せて発信することにより発信力を強化した。
- ・自転車の魅力を発信する動画配信は、若年層に対して訴求効果があった。今後も、自転車の魅力を発信し続けるとともに、裾野を広げ、リピーターを確保する取組みを継続する。

(4) 地域ブランド化事業

○事業概要及び目的等

伊豆の自慢プリン事業を継続し、広域的な情報発信を展開するとともに、大型ショッピングモール等での物産展を開催することにより、伊豆半島の食資源の魅力を発信して消費喚起を図る。

○事業実施状況

①伊豆半島食コンテンツ強化事業

伊豆の自慢プリンの SNS を運用しつつ、地域での認知度向上を図るため、販売会を実施した。

項目	概要
伊豆の自慢プリン販売会実施	伊豆半島域内外の方が多く来場する「ららぽーと沼津」にて、伊豆の自慢プリン販売会を実施。2日間の開催で9業者が出店した。 開催日：10月22日(土)、23日(日) レジ件数合計：1,469件(総売上：約180万円)

②食資源による魅力発信

主要市場である首都圏の誘客施設、県内主要施設等を対象に観光物産展を開催した。

項目	概要
ららぽーと物産展	「ららぽーと沼津」のイベントの一環として、伊豆の物産展を開催した。(2日間で9事業者の出店)。また、期間中にららぽーとで一定額以上の買い物をした方を対象にWEB抽選を行い、三井不動産の協力により伊豆半島の観光施設の利用券やスイーツ引

	換券等を賞品として提供した。 開催日：4月8日（土）、9日（日） レジ件数：約1,000件（総売上：約100万円）
伊豆半島ポップアップストア 伊豆まるごと物産展	横浜市内の青葉台東急スクエアにて伊豆の物産を取り扱う期間限定のショップを開催した。 期間：2月1日（水）～28日（火） 取扱商品：各市町商工関係部署、商工会議所、商工会に募集依頼し220アイテムを販売。（総売上：約450万円）
伊豆半島住む人・来る人感謝祭	「道の駅下田開国みなと」にて賀茂地域在住の方や観光客に対してのイベントを開催した。伊豆縦貫道が一部開通することを受け、域内の交流促進の観点から賀茂地域内外の物産を取り扱う物産展や料理教室などを開催した。 開催日 令和5年3月18日（土）、19日（日） （来場者数：約3,300人）

○評価と改善

- ・令和4年度の新たな取組として、東急スクエア（横浜市青葉区）で「伊豆半島ポップアップストア 伊豆まるごと物産展」を1か月間開催して伊豆の物産を販売した結果、伊豆半島の魅力を発信するとともに売上を出店者へ還元することができた。
- ・新たな取組として、静岡県賀茂地域局との連携により「伊豆半島住む人・来る人感謝祭」と題した観光物産展を下田市内で開催した。物産展と併せ、地域の魅力ある海産物等を用いた料理教室、地域防災啓発イベントや、伊豆縦貫自動車道の一部開通による利便性向上についてPRしたことで地域振興を図ることができた。
- ・両イベントともに準備期間が短く、出店者の募集や取り纏めに苦慮したため、今後は準備期間も含めて計画的に実施する。また、イベントごとに地域や関係者と緊密に連携し、住民及び観光客が伊豆の魅力を体感できるような仕組みづくりを検討していく。

3. 国内観光誘客事業

○事業概要及び目的等

伊豆半島域内の市町、観光協会及び交通事業者等と連携し、伊豆の主要マーケットである首都圏等の観光キャンペーンに出展し、地域外へ伊豆の魅力をPRする。

併せて、静岡県観光協会と連携し、各市町の観光商品シート作成、集約に努めるとともに、造成した観光商品について、静岡県観光協会及び交通事業者等と連携したエージェントセールスを積極的に実施し、継続した観光交流プロモーションを実施する。

○事業実施状況

①国内観光事業

主なマーケットである首都圏各地では、定期的に一般向けの観光PRを実施しつつ、名古屋、大阪をはじめとする全国主要都市においては旅行会社向けのセールスを実施した。

項目	概要
観光キャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆産直市 <ul style="list-style-type: none"> 5月20日～21日（藤沢駅構内、来場者 450 名） 7月13日～15日（鶴見駅構内、来場者 500 名、SNS 52 名） 7月17日（平塚駅構内、来場者 200 名、SNS 55 名） 10月22日（茅ヶ崎駅構内、来場者 500 名、SNS 127 名） 12月18日～19日（大宮駅構内、来場者 400 名） 1月19日～21日（上野駅構内、来場者 790 名） 2月2日～4日（横浜駅構内、来場者 2,100 名、SNS 90 名） 2月23日（武蔵溝野口駅構内、来場者 250 名） 3月8日～11日（鶴見駅構内、来場者 900 名、SNS 34 名） ・河津バガテル公園伊豆半島周遊フェア <ul style="list-style-type: none"> 5月28日～6月30日（パンフレット配布数約 5,000 部） 5月28日（1DAY イベント、スタンプラリー参加者 117 名） ・トラベルランド名古屋 <ul style="list-style-type: none"> 6月18日～19日（名古屋市久屋大通り公園、来場者 600 名） ・JTB 夏の伊豆フェア <ul style="list-style-type: none"> 6月1日～9月30日（首都圏・中部圏・関西圏 242 店舗） ・ツーリズム EXPO ジャパン 2022 <ul style="list-style-type: none"> 9月22日～25日（東京ビックサイト、来場者 2,000 名） ・ふるさと観光展 2022 IN 仙台 <ul style="list-style-type: none"> 10月5日～7日（仙台駅構内、来場者 700 名、SNS 108 名） ・伊豆箱根鉄道ふれあいフェスタ <ul style="list-style-type: none"> 11月23日（伊豆箱根鉄道(株)本社、来場者 300 名） ・伊豆うまいもん市（東京駅スクエアゼロ、来場者 800 名、SNS 190 名） ・よこすかYY のりものフェスタ <ul style="list-style-type: none"> 12月3日～4日（横須賀市ヴェルニー公園、来場者 2,275 名、SNS 380 名） ・JTB 春の伊豆フェア <ul style="list-style-type: none"> 1月上旬～3月31日（首都圏・中部圏・関西圏 240 店舗） ・東京駅観光プロモーション <ul style="list-style-type: none"> 2月24日～25日（東京駅八重洲中央口、来場者 400 名） <p>※SNS の数は、美伊豆 Instagram、Twitter、Facebook 等をフォローした方の人数を記載。</p>
エージェントセールス	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡観光プレゼン会 <ul style="list-style-type: none"> 4月7日（札幌市、商談者 13 名） 4月13日（大阪市、商談者 34 名） 4月14日（福岡市、商談者 17 名） 4月20日（岡山市、商談者 9 名）

	<p>4月21日（広島市、商談者6名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに静岡観光大商談会 IN 東京 <p>4月19日（東京都新宿区、参加者79名、商談者25名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年下期 JR 東日本観光素材旅行会社向け説明会 <p>4月26日（東京都新宿区、参加者62名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋 AGT セールス <p>6月17日（名古屋市、商談先5社）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツーリズム EXPO ジャパン 2022 <p>9月22日～23日（東京ビックサイト、商談先20社）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台 AGT セールス <p>10月5日～6日（仙台市、商談先4社）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに静岡観光大商談会 IN 大阪 <p>10月12日（大阪市、参加者57名、商談者11名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに静岡観光大商談会 IN 東京 <p>10月27日（東京都新宿区、参加者91名、商談者10名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西発 JTB ロイヤルロード銀座ファミトリップ <p>2月21日～23日（JTB ロイヤルロード銀座関係者4名）</p>
パンフレット制作	<ul style="list-style-type: none"> ・雨の日周遊パンフレットのリニューアル <p>9月30日発行、制作部数15,000部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯どき花どきキャンペーン メインパンフレット <p>10月25日納品、制作部数20,000部（美伊豆分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆半島ドライブマップ「ようこそ伊豆」一部リニューアル <p>1月20日納品、制作部数10,000部</p>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期のイベント、新観光施設 OPEN 情報、年間スケジュール、大河ドラマ関連情報等を旅行会社向けに発信。 <p>6月10日（発信先147社）</p> <p>12月13日（発信先154社）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大河ドラマ「どうする家康」×伊豆特集ページ公開 <p>美伊豆公式 HP 内に「徳川家康」、「徳川家」、「江戸時代」に関する伊豆の観光素材等の特集ページを開設。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆の旅のしおりテンプレートファイル作成 <p>記念旅行向けコンテンツの充実を図るため、旅のしおりのテンプレートファイルを作成し、美伊豆公式 HP にて公開。</p>

②大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ゆかりの地推進事業

伊豆半島全体で大河ドラマの人気にあやかり恩恵を享受するため、伊豆の国大河ドラマ館と観光施設との間で実施中の相互割引を広く周知するなど誘客と周遊促進を目的とした事業を実施した。

項目	概要
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Facebook、Instagram) 広告配信 <p>広告クリック (HP アクセス) 実績7月 972件</p>

	<p>8月 1,807件 9月 2,418件 10月 2,092件 11月 2,295件 12月 1,186件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリーペーパー「伊豆時間」への広告出稿（7月発行） 制作部数 25,000部 ・首都圏、中部圏、関西圏の信用金庫へ年金旅行誘致を目的とした情報発信。 7月8日 148社（庫） ・大河ドラマ、関連寺院等の情報を寺院、僧侶を専門とした旅行会社向けに発信。 7月28日 12社（支店） ・美伊豆公式HP内に「徳川家康」、「徳川家」、「江戸時代」に関する伊豆の観光素材等の特集ページを開設。
広報物作成	<ul style="list-style-type: none"> ・相互割引PR用パンフレット制作（制作部数 60,000部） ・相互割引PR用ウチワ制作（制作枚数 15,000部）
相互割引利用者	<p>令和4年度（4月～1月）の利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆の国大河ドラマ館 2,284名 ・観光施設の合計 7,044名（有効回答 21/29施設）

○評価と改善

- ・全国旅行支援などの施策によって旅行需要が高まったことを受け、首都圏等における観光キャンペーンに注力し、伊豆への誘客を図った。
- ・夏・春の2回、中部圏・関西圏のJTB店舗での伊豆半島キャンペーンを実施したほか、富裕層向けツアーを販売している「JTB ロイヤルロード銀座」の関係者を招聘し、関西発の富裕層向け伊豆モデルコースのファムトリップを実施した。これにより、西日本からの誘客を促進することができた。
- ・近年、伊豆への旅行形態は従来型の団体ツアーから小規模、個人向け、滞在型旅行へ徐々に移行しつつあり、コロナ禍を経て急速に進行している。今後は、様々な環境の変化へ柔軟に対応するため、従来型のプロモーションだけではなく、テーマ別観光の推進や観光客目線の誘客活動などによる効果的な手法についても模索していく。

4. インバウンド（外国人観光客等誘客）事業

○事業概要及び目的等

新型コロナウイルス感染症による渡航制限により、現地での観光プロモーションができない状況を踏まえ、台湾のOTAと連携し情報発信とともに旅行商品の販路を設定する。また、10月11日からの渡航制限解除を受け、現地でのトップセールスなどにより、伊豆半島の魅力を伝え、販路の拡大を目指す。

○事業実施状況

①インバウンド向け情報発信事業

件名	対応（時期）
台北駐日経済文化代表 處視察対応	台北駐日経済文化代表處の謝處長による伊豆地域視察（MERIDA X BASE・伊豆長岡駅・大河ドラマ館）対応、正副会長及び伊豆の国市長、伊豆箱根鉄道社長との面談。（4/4）
KKday 包括連携協定に係 る陳 CEO 来訪対応	令和3年度に包括的連携協定を締結したKKday 陳 CEO の来日に合わせ、正副会長と面談。（4/15）
台湾おもてなしセミナー	伊東観光協会総会及び伊東市役所、賀茂キャンパスにおいて、林田常務理事による台湾おもてなしセミナーを実施。（5/30、6/30、11/11）
TSJ 海外レップ（英・ 独、米・豪）研修	TSJの海外レップスタッフに向けた、伊豆半島観光情報に関する研修をオンラインで実施。（6/17、1/17）
TikTokerモニターツアー	KKdayと連携し、人気TikTokerを伊豆半島へ招聘してモニターツアーを実施。（8/29）
静岡県海外事務所研修	静岡県海外事務所の現地スタッフを対象として、伊豆半島観光情報に関する研修をオンラインで実施。（10/11）
Japan Rail Fair 2022 出展	伊豆急行・伊豆箱根鉄道と連携し、シンガポールで開催された鉄道・観光イベントへ出展。（10/14～16）
著名誌「ELLE」記者に よる取材対応	JNTO及びTSJと連携し、著名ライフスタイルマガジン「ELLE」記者による伊豆取材を実施。（11/15・16）
タイ芸能人招聘	静岡市と連携し、タイの女優“bow Maylada”及び俳優“lek teeradetch”を招聘し、同氏らのSNSを活用した伊豆地域の観光PRを実施。（12/11・12）
フランスメディアによ る伊豆取材対応	JNTOパリ事務所と連携し、フランスメディア「Voyage Voyage Magazine」等の記者による、伊豆地域食材をテーマにした取材に対応。（3/2・3/3）
台湾向けパンフレット 増刷	水際対策緩和後に急増した訪日台湾人旅行者への配布及び現地観光イベント等での配架のため、台湾向けパンフレットを増刷。（5,000部）
TSJ 英レップ伊豆視察対 応	TSJと連携し、イギリスレップスタッフに対する伊豆現地視察研修を実施。（1/31）
欧米向けオンライン記 事作成	在日外国人ライターを起用したハイキングコースに関するオンライン記事作成。（随時）
台湾向けオンライン記 事作成	在日台湾人ライターを起用したオンライン記事作成。（随時）

②インバウンド向け旅行商品開発事業

件名	対応（時期）
KKday 施設営業	KKday プラットフォームへの伊豆商品掲載を促進するため、KKday 担当者と共に各施設を訪問。（随時）
香港 EGL 旅行者ファミトリップ対応	静岡県空港振興課と連携し、香港の旅行会社を対象としたファミトリップを実施。（6/22）
静岡県インバウンド旅行会社商談会	静岡県観光協会が主催するインバウンド旅行会社を対象とした商談会へ参加。（9/13）
台湾ベジタリアン向けモデルコース造成	TSJ 及び JR 東海と連携し、台湾ベジタリアンを対象としたモデルコース造成のための取材を実施。（10/7）
台湾旅行会社等セールス及び Touch The Japan Festival 視察	台湾の旅行会社及び観光関連行政機関を訪問し、セールスを実施するとともに、次年度の参加検討のため、現地で開催されていた日本物産展“Touch The Japan Festival”を視察。（10/19～23）
在京ホテルコンシェルジュファミトリップ対応	TSJ と連携し、アマン東京のコンシェルジュを対象としたファミトリップを実施。（10/20・21）
JTBGMT セールス	静岡県観光協会と連携し、JTBGMT を訪問してセールスを実施。（10/27）
台湾旅行会社ファミトリップ対応	静岡県観光協会と連携し、台湾旅行会社を対象としたファミトリップを実施。（12/7～10）
台湾旅行会社商談会	富士山三島東急ホテルにて開催された台湾旅行会社との商談会に参加。（12/9）
台湾オンライン商談会	静岡県台湾事務所が開催する、現地旅行会社を対象としたオンライン商談会へ参加。（12/15）
国土交通省「水の里の旅コンテスト2022」インバウンド賞受賞	国土交通省「水の里応援プロジェクト」における「水の里の旅コンテスト」へ伊豆地域旅行商品を応募し、特別賞「インバウンド賞」を受賞した。（12/20）

③インバウンド向け旅行販売事業

件名	対応（時期）
台湾向け商品販売促進	KKday と連携し、KKday プラットフォーム上での伊豆半島プロモーションを実施することにより、商品販売の促進を図った。（随時）
台湾トップセールス	当センター正副会長による、台湾旅行会社及び政府機関に対するトップセールスを実施。（2/2～5）

○評価と改善

- ・令和3年度に包括的連携協定を締結したアジア最大級の OTA である“KKday”と連携し、当該プラットフォームへの伊豆観光商品の掲載に向けた営業を実施したことにより、新規掲載8事業者が獲得できた。
- ・10月の政府による水際対策緩和後にいち早く台湾へ渡航し、現地観光行政や旅行会社への営業を実施したことにより、訪問先からは動き出しの速さに対する高評価を得た。このほか、主な集客対象としている台湾に向けた営業を強化し、正副会長による現地トップセールスを実施した。
- ・新たな取組としては、近年注目が集まる TikTok インフルエンサーや Youtuber を活用した伊豆の PR を実施して好調な視聴回数を記録したほか、ガストロノミーツーリズムに関するフランスメディアの取材では、伊豆の名産品である“わさび”と“塩鯉”、“本枯節”を紹介し、高い評価を得た。また、国土交通省が行った「水の里の旅コンテスト」においては、伊豆のわさび田を巡る E-bike ツアーがインバウンド賞を受賞した。
- ・今後の課題としては、世界情勢の変化を考慮しつつ、誘客対象とする国や地域を拡大していくことや、外国人旅行者に対応可能なガイドの安定的な確保、富裕層向け商品開発に向けて地域事業者とのなお一層の連携強化を図りたい。SNS などのツールも活用しつつ、地域の方々と連携しながら新たな伊豆の魅力について広く情報発信していく。

5. 伊豆半島報発信強化事業

○事業概要及び目的等

リニューアルを実施した伊豆観光公式サイト「美伊豆 B-IZU」の記載情報の拡充を図り、13市町の観光ホームページへの誘導により市町観光ホームページと連動した情報発信を行っている。

①情報発信強化事業

13市町や JR 等と連携し伊豆半島全域の包括的な情報発信を行い、旅行前・滞在中の観光情報収集の満足度の向上や、伊豆半島内の周遊を促進した。

項目	概要
掲載情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市町観光担当部署、観光協会、全会員向けに美伊豆ホームページの新着観光情報欄の活用について周知（5月下旬、8月下旬） 新着情報発信実績 熱海市、下田市、伊豆市、東伊豆町等 ・各イベントの情報の掲載や、月毎の13市町のイベントを取り

	<p>まとめて掲載し、伊豆半島全体での包括的な情報発信を行った。</p> <p>9～10月観光情報（沼津市、熱海市、三島市、下田市、伊豆市、南伊豆町、松崎町、函南町 5市3町）</p> <p>11月観光情報（沼津市、熱海市、三島市、伊豆の国市、西伊豆町 4市2町）</p> <p>12月～1月観光情報（伊豆市、熱海市、沼津市、伊東市）</p> <p>2月観光情報（沼津市、西伊豆町、熱海市、）</p> <p>3月観光情報（伊東市、沼津市、熱海市、三島市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオ協との統合に伴う組織体制やブランドイメージ等の修正を行った。 ・特集ページ「伊豆のおすすめスイーツ特集第2弾」「撮りに行きたい伊豆の映えスポット」「伊豆の温泉紀行」を掲載。 ・新たなカテゴリー「山岳」「花」「夕陽」「滝・河川・湖」「旧跡」「神社仏閣」「海の幸」「山の幸」「川の幸」「伊豆の本物」「ご当地B級グルメ」など情報を拡充。 <p>【アクセス数（概数）】</p> <p>4月：5,000件、5月：8,000件、6月：9,000件、7月：15,000件、8月：22,000件、9月：16,000件、10月：21,000件、11月：21,000件、12月：18,000件、1月：16,000件、2月：19,000件、3月：21,000件</p> <p>合計191,000件（月平均16,000件）</p>
えきねっと後追いメールとの連携	<p>JR東日本の実施するえきねっと後追いメールと連携し、その週末の伊豆のおすすめ情報等を掲載した。（7/15～9/22 全9回）</p> <p>合計閲覧数：383回</p> <p>JR東日本の実施するえきねっと後追いメールと連携し、その週末の伊豆のおすすめ情報等を掲載した。（12/28～2/17 全10回）</p> <p>合計閲覧数：181回</p>

② SNS等を活用した情報発信事業

InstagramやTwitterなどのSNSを活用し、F1層（20～34歳女性）をターゲットとした効果的な情報発信を実施した。またSNSの活用法の理解を深め効果的な情報発信を図るため、研修会を実施した。

項目	概要
SNS プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・主にF1層をターゲットにした投稿を実施。 <p>フォロワー数（3月31日現在）</p> <p>Instagram：10,006、Twitter：11,851、Facebook：7,206</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagramについて、F1層（20～34歳女性）にターゲットを絞り、下期より文字入り投稿を活用した情報発信を定期的に行い、

項目	概要
	フォロワー数を増加させることに注力した。(10月～3月で35回投稿)。フォロワー数は10,006(11月8日時点より106%増加)となった。また、TwitterやFacebookについては、会員の発信する観光情報のリツイートやシェアを中心に情報発信を行った。
SNSセミナー	会員を対象とした無料セミナーを実施。各SNSの特徴やユーザー属性、運用におけるターゲットの設定方法やInstagramを中心としたアルゴリズムに基づく効果的な投稿方法等について説明を行った。(11/25 参加人数28社47名)

○評価と改善

- ・ホームページについては、令和4年4月1日のリニューアルに伴うドメイン※の変更等によりアクセス数が伸び悩み、月間平均16,000件となっている。このため、8月以降、市町観光担当者の協力を仰ぎ、定期的なイベント情報の発信やコンテンツの更新等も行い、ページ内の情報の拡充を行ったほか、リンクの貼り付けをしていただいている企業、団体等に働きかけ、相互リンクの依頼等を行っている。結果として、少しずつではあるが、アクセス数が伸びてきているものの、ドメイン変更前のアクセス数まで回復していない。
- ・令和5年度は、旅行者が求める季節に応じた特集ページの作成や市町境を横断した観光情報を発信しつつ、伊豆半島全域で検索できる周遊ルート案内サービスも活用してアクセス数の回復を図っていく。 ※インターネット上の住所
- ・SNSプロモーションについては、特にInstagramにおいて、ターゲットを絞り、直近のアルゴリズム※に基づいて効果的な情報発信を行った結果、年度末にはInstagramのフォロワー数が10,000人を突破した。併せて、今後も、外部委託による高品質な投稿を基本としつつ情報発信を継続していく。 ※手順や計算方法のこと

6. ジオパーク基本計画・行動計画推進事業

○事業概要及び目的等

2018年度にユネスコ世界ジオパークに認定された後、2021年度に5か年の新たな「基本計画・行動計画」を策定した。この基本計画・行動計画は、一般社団法人美しい伊豆創造センターの基幹施策として明確に位置付けられ、継承されている。

特にジオガイドの人材養成事業、ジオカフェ等の地域や企業間連携事業、教育普及事業、伊豆地域の基幹産業である観光と連携したジオツーリズム事業等を通じ、持続可能な地域づくりを進めるための主要事業として取り組んでいる。

○事業実施状況

①—1 ジオガイド養成講座(第8期)及び関連事業の開催

2022年度は、2022年2月に連携協定を締結した静岡大学の協力を得ての講座開講となった。現在、それぞれの専門家を講師に招き座学やフィールドワーク(巡検)を実施した。

第8期生 ジオガイド養成講座 カリキュラム

受講者 31名 講座内容は以下のとおり

開講日	講座名等	25講座	巡検7地域
10/16(日)	伊豆半島のジオガイドとガイドの役割		
開校式	伊豆半島ジオパークの原点とあゆみ		
	プレートテクトニクスと伊豆半島		
	伊豆半島の地質と火山		
10/29(土)	ユネスコ世界ジオパーク論		
	伊豆半島の気象		
	ジオパークにおける教育		
10/30(日)	伊豆半島の自然災害と防災		
	伊豆半島を囲む海		
11/6(日)	伊豆文学概論		
	伊豆半島の植生		
	伊豆半島地誌		
11/19(土)	巡検(フィールドワーク)7コース。講師は研究員		
	11/19 東伊豆エリア、11/26 北・西伊豆エリア		
12/18(日)	11/27 西伊豆エリア、12/3 中伊豆エリア 12/10 文化・歴史、		
	12/11 北伊豆エリア、12/18 南伊豆エリア		
1/8(日)	伊豆半島の歴史(一般市民向け公開講座として開催)		
	「伊豆の武士(もののふ)」講師:小和田哲男静大名誉教授		
	伝える技術(インタープリテーション論)		
1/21(土)	野外ガイドと危機管理		
	ツアー造成		
	ガイドを実践するために		
1/28(土)	救急救命実習		
	救急救命概論		
認定試験日			
	2月18日(土)	楽寿園	
	2月19日(日)	龍宮窟・堂ヶ島	
	2月23日(木・祝)	断層公園	
	2月25日(土)・3月1日(水)、3月6日(月)	大室山	
	3月24日(金)	龍宮窟	
	3月26日(日)	断層公園・大室山	
27名が合格し、新規ジオパークガイドに認定			

4か月に及ぶ座学や巡検を通じ、新たに8期生27名が伊豆半島ジオパークの認定ジオガイドとして誕生した。コロナで講座の延期を余儀なくされ3年ぶりの新規認定となった。

① —2 認定ジオガイド更新講習

・認定期間の終了を迎える第2期および第6期の認定ジオガイドに対し、認定期間更新のための講習を実施した。「ジオガイドとしての防災への取り組み」と題して、糸魚川市の防災事例やJリーグの社会連携についての講師を招いたプログラムを行った。

3月1日(水) 55名

3月15日(水) 5名 計60名

※3月15日は1日に参加できなかった受講者への録画動画講義

①—3 スキルアップ講座

・認定ジオガイドを対象に、伊豆の魅力をより一層伝えられるよう、各地域の特色や資源の理解を深めることのできる内容の講座を実施した。

「石・鉱物が怖くなくなる！パキッと答えられるようになろう」と題し、鉱物学の専門家を講師として招いて、岩石の変質などについて学んだ。

2月24日(金)、25日(土) 計40名が受講

※両日とも同内容

②ジオ検定実施

伊豆半島の成り立ちや歴史、文化、社会などを楽しみながら学ぶジオ検定で、2012年度にスタートし、2022年度で11回目の開催。3級は書籍やインターネットで調べながらマイペースで受験ができるため、家族や職場の皆さんでの受験が増えている。本年度は修善寺中学校1年生の参加も含め728名の受験があり、合格者は702名であった。

2023年1月15日(日)にプラサヴェルデ(沼津)、ひぐらし会館(伊東)、開国下田みなと(下田)の3会場で1級・2級の検定を実施。31名が受験し、1級合格者1名、2級合格者19名。1級合格者である勝野譲氏のネームプレートを、ジオリア入口に掲示した。

③ジオカフェ開催事業

ジオパークの普及啓発を目的に、地域の資源とジオパークの視点を通じ、楽しく学び、交流の場づくりとなるジオカフェ等を定期的実施した。

コロナ対応に万全を期し、事前予約による少人数での開催となった。

項目	概要
ジオカフェの開催	○4月16日(土) 波の下のGEO 会場 ウィンディーネットワーク海洋調査技術研究所 参加者数 20名 ジオパークのエリアは沖合3キロまで。海の中の世界を海に関わる仕事をしている人たちからの聞くという試み。 ○8月27日(土) ジオ文豪カフェ「帰ってきた峠の男たち」 会場 湯ヶ島市民文化センター あまじお 参加者 15名 伊豆半島ゆかりの作家と作品を「峠」と「異世界への扉」を切り口にトークを楽しむ。終了後はジオ文豪ウォークを実施。 ○11月26日(土) 「おんせんはたいへん～共同湯」 会場 伊東市岡布袋の湯(県温泉協会との共催事業) 参加者 21名 共同浴場の魅力を語る ○2月11日(土・祝) 「珪石の山のふもとで」※

	<p>会場 しがねすと</p> <p>参加者 23名 珪石が採石される山と、その西伊豆に生じたガラス文化の足跡を辿る。</p> <p>※好評を博したため、3月27日(月)に西伊豆ビジターセンターとの共催で追加開催し、37名が参加した。</p>
--	---

④学校教育等との連携事業

ジオパークでの教育の対象は、大人から子どもまで全ての世代であり、教育活動は単に岩石や地層の知識を学ぶのではなく、大地の生い立ちと人々の歴史や暮らし、そこから生まれる産業、文化とのつながりを学び、地域の良さや魅力に気づき郷土愛を育む活動として位置づけている。

本年度は、ジオガイドが学校現場と連携してジオ学習を通じて故郷の良さを学び、持続可能な地域づくりの担い手を育成することができる「学校現場でジオガイドするための手引き」を活用し、より良いジオ学習の取組を行うほか、生涯学習でのジオパークの普及等に取り組んだ。

④ー1 ジオ教育教材を活用した学校でのジオ学習の推進

4月 学習用「伊豆半島のひみつ」ホームページのリニューアル

5月 各市町教育委員会の協力を得て、教育マンガ冊子「伊豆半島のひみつ」を構成15市町の5年生約4,700名に配布。

10月 教育通信第25号の発行

1月 教育通信第26号の発行

④ー2 教育ワーキングの開催

○9月7日(水)開催「教育普及ワーキング」を発足し活動した。

(構成メンバー) 安藤裕夫氏、齊藤武氏、牛島康祐氏、富川友秀教諭、加藤健司氏
 ・ジオ学習の地域的な偏りへの対応や中等教育への浸透をテーマに1年かけ審議を行う。ジオ学習とは、学校での普及には地域資源が身近にあることがジオ学習推進の要素で、教育旅行での準備の重要性等を協議した。

○12月1日(木)第2回普及ワーキング開催

・松崎高校での「探究活動」の取り組み、松崎2030プロジェクトとの連携
 ・中学校、高校での活動の方向性について、モデル校の検討や探求学習についての情報発信プラットフォーム構築等について協議。

○2月15日(水)第3回普及ワーキング開催

・北伊豆エリア(沼津)への普及方法の検討
 ・モデル校の選定について、松崎高校や稲取高校などの情報共有

④ー3 ESD(持続可能な開発のための教育)活動拠点としての活動

○9月8日(木)ESD推進ワーキングを発足し活動を開始した。

(構成メンバー) 大塚明氏、伊藤博隆氏、渡辺一雄氏、山本隆太静大准教授、佐藤

真久東京都市大学教授

- ・統合を機に、ESD 教育活動拠点として推進3か年戦略プランの立案。
2022 年度末までにロードマップをとりまとめ、優先度の高い事業より計画に反映させることを確認した。

○11月24日（木）第2回ESDワーキング開催

- ・佐藤氏より「ESDの理論的なフレームワーク」とジオパーク活動提案
各委員より2023年度事業提案を受け、実施事業を検討。
ジオパーク資源を活かしたSDGs課題解決探求の発表&交流会、ジオサロン
ESD活動拠点校指定とコーディネーター設置等の提案を協議した。

○2月28日（火）第3回ESDワーキング開催

- ・市民参画の仕組みづくりの方法について、事業案を模索。その他に、委員共作の書籍刊行の方向性について協議した。

④—4 小・中・高校・特別支援学校等との学校連携による普及活動

小・中学校…2022年度の実施校は小学校23校1,904人、中学校6校966人、教員研修2回36人高等教育との連携・普及

(ア) 韮山高校

- 9月 理数科生徒を対象としたジオパーク学習（座学・フィールドワーク）
- 12月 伊豆箱根鉄道とのコラボによる「ジオトレイン」12月運行予定
写真報道探求部生徒との合同企画

(イ) 沼津商業高校

アドバイスをを行った情報ビジネス科が、ジオパークを研究テーマとして地域課題研究に取り組んだ。令和5年度から開講予定の新コースでも継続して協力予定である。

(ウ) 4月 静岡県立大学 9月 日本大学国際関係学部

「ユネスコが掲げるジオパークの理念と、伊豆半島ジオパークでの実践」講義

④—5 ジオ学習新規導入学校への講師無償派遣事業

- ・ジオ学習の普及の課題に、ジオガイドへの講師料負担という課題があったことから、新規にジオ学習に取り組む学校のジオ学習のガイド講師料を初年度のみ助成する制度を令和元年度に創設した。既存の実施校に加え、新規4校でのガイド派遣を行い、ジオ学習の新規普及を図った。

○新規実施校	5月	長泉町立長泉中学校2年生	277名
	6月	東伊豆町立稲取小学校5年生	36名
	7月	函南町立西小学校5年生	83名
	2月	下田市立白浜小学校3年生	10名
		計406名の児童・生徒を対象	

④—6 防災（減災）関連事業

4月 伊豆東部火山群防災協議会（事務局：伊東市）への参画

⑤ジオツーリズム促進事業

伊豆半島の各地や拠点となるビジターセンターを活動拠点としたジオガイドツアーは10月に行われたユネスコ世界ジオパークの再審査でも高い評価を受けた。

特に、中伊豆のわさび沢でのE-bike（電動アシスト付き自転車）は、伊豆半島ならではの資源や景観を満喫してもらうことができた。本年度も自然環境の保全と活用、環境にやさしくアフターコロナを見据えた取組を行っている。また、県が重点施策として進めるサステナブルツーリズム事業とも連携しながらジオガイドの資質向上と地域経済の活性化、ユネスコ世界ジオパークの認知度・ブランド力の向上を図っている。

項目	概要
ジオツーリズム 推進事業	○ららぽーと沼津でスキューバダイビング体験＋ビーチソムリエ体験 8月27日、28日 ○伊豆半島への宿泊者を対象にE-bikeを利用したジオサイトを巡るツアーの企画商品化を目指したモニターツアーを実施 実施日 3月20日、27日 体験の様子を動画にしてSNSやイベントを発信し、伊豆半島への誘客を寄与し、さらなる地域活性化を促進する。 11月14日 映像収録 12月からHP・SNSで動画配信 ○2月14日 SBS番組「それいいね」ジオリア取材

○評価と改善

- ・ジオガイド養成講座については、3年ぶりに開催し、カリキュラムの再構築を行ったところ、2022年に静岡大学と締結した包括連携協定が活かされた内容になった。
- ・ジオ検定については、3級は例年以上の参加があったものの、1・2級においては実施会場によって受験人数のばらつきが目立ち、特に下田会場での受験者は3名と少なかったため、告知方法や会場の選定、実施方法等の見直しを検討していく。
- ・学校教育等との連携事業については、ジオ学習新規導入で無償派遣を実施した学校が4校あり、中でも長泉町、函南町、東伊豆町は、ジオ学習の実績が多くない地域であることから、今後の普及に期待できる実績を残すことができた。
- ・ジオツーリズム事業は、前年度までコロナ禍で実施できずにいたが、E-bikeを利用したジオサイトを巡るツアー企画商品化を目指したモニターツアーを実施することができ、さらにSNSやテレビでのPRにより、ジオパークの認知度を向上させることができた。
- ・ジオカフェ開催事業では、新たなテーマとして地域産業（西伊豆の珪石）を扱うことで地域の記憶の掘り起こしと語り継ぎを試みたほか、「波の下のジオ」では伊豆半島周辺の海底地形をテーマとして扱い、ジオパークとしての海の領域について再認識と関心を促すことができた。

- ・このほか、組織改編に伴い、伊豆半島ジオパーク推進協議会の教育部会の継承組織体会議として2つのワーキンググループを立ち上げそれぞれの委員には地域や各分野のスペシャリストを招き入れ、当組織の中長期計画にも貢献できる素地を作ることができた。
- ・コロナ禍における3年間は、イベントの中止や開催方法の見直しを余儀なくされた。細心の注意を払ってようやく各種イベントを再開させた1年だったが、今後は、域内の市民・町民にも関心を持ってもらえる活動を活発に行い、課題である域内での当ジオパークの認知度、理解度を訴えかけていく必要がある。イベントについては、地元の人が参加しやすいよう定員の設定や告知の仕方を工夫していく。

7. ジオパーク調査研究事業

○事業概要及び目的等

ユネスコ世界ジオパーク活動においても研究員による研究活動が重要である。本年度も3名の研究員がそれぞれの専門分野で研究並びに研究に基づく関連事業への還元を進めている。

他の関連事業として、他のジオパークの専門員との情報、事例や相互訪問を含め積極的に実施している。またユネスコ世界ジオパークとして求められる国際的学術論文刊行を励行するため、研究助成を活用し、伊豆半島を対象とする先進的研究を支援している。

○事業実施状況

①研究関連活動事業

専門職員による各専門分野の研究関連活動として、以下の分野を各研究員が取り組む研究のための情報収集費用を支援している。

○伊豆半島の地理学の研究（韮山反射炉，津波碑関係）朝日専任研究員

○伊豆半島の地質学の研究（伊豆半島南部における地質研究）遠藤専任研究員

南伊豆町入間の年代未詳地質体について令和3年度までに野外調査を行い、火山弾や各種岩石サンプルを採取した。令和4年度は得られた試料について岩石記載に必要な薄片を作成し、さらにそのうち5点について全岩化学組成分析を実施した。2023年度は火山岩試料の年代測定および論文執筆を予定。

○伊豆半島の人文学の研究（無形文化遺産保全、ESDに関する研究）辻専任研究員

本年度、研究員による研究成果は後述のとおりである。

②研究活動支援事業

伊豆半島ジオパーク学術研究助成要綱に基づき実施。伊豆半島を対象とした調査・研究に対し30万円を上限とする助成をしている。本年度は4件の応募のうち1件を採択した。

○助成採択者：加瀬友喜氏（国立科学博物館地学研究部）

研究課題：「伊豆半島の中新世異性石灰岩体中の軟体動物化石群の種多様性の解明」

助成金額：29万円

③研究・学術ワーキング開催事業

10月に実施されたユネスコ世界ジオパーク再認定の現地審査終了後、審査員から示される新たな「指摘事項」を踏まえ、必要に応じて関連分野を専門とする学識経験者を招集し、時限的なワーキングを立ち上げることにしているが、2022年度は実施しなかった。

研究発表関係では、大室山をテーマとした下記発表会を開催した。

○2023年2月23日（木・祝）「プリンの不思議に迫る 大室山研究発表会」

会場：伊東市観光会館 別館

講演：「山焼きが大室山の日本らしい緑を守る」

講師：根本正之氏 東京大学大学院 農学生命科学研究科特任研究員)

講演：「宇宙線で透視する火山の内側」

講師：宮本成悟氏 東京大学地震研究所助教、

小山真人氏 静岡大学防災総合センター副センター長

参加者 145名

研究員の主な研究成果

<朝日克彦研究員>

○著書

朝日克彦 (2023)：過酷な闘いのフィールドワーク。椎野若菜・小西公大：編『FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ第8巻：災難・失敗を超えて』古今書院，受理済み 印刷中

○学会発表

Asahi, K. (2022): Geopark's addition of scientific value on World Cultural Heritage Site: locality explanation of Nirayama Reverberatory Furnaces in Izu Peninsula UNESCO Global Geopark. 7th Asia Pacific Geoparks Network Symposium. Satun, Thailand, 8 September, 2022.

<辻 修次研究員>

○著書

Tsuji, S. (2023): Intangible Cultural Heritage in the Era of the 2003 Convention, In Raja Iskandar Halid(ed.) Current Issues in Malaysian Heritages. Kota Bharu, University Malaysia Kelantan Press. 受理済み 印刷中.

辻 修次 (2023)：漁民による自然保護。『環境社会学辞典』、丸善、pp. 394-395.

○学術論文（査読有）

Tsuji, S., Fauzan, T. and Daetom, A. (2022) Heritage Value, Sustainability, and Commercialization of Smoked Clam (Etak Sakai) in Kelantan. *Kajian Malaysia*, Vol. 40 No. 2, pp. 65-89.

○学会発表

Tsuji, S. (2022): Inventorying Intangibles in Japanese Geoparks- under conflicting heritage laws. 7th Asia Pacific Geoparks Network Symposium. Satun, Thailand, 10 September, 2022.

<遠藤大介研究員>

○著書

遠藤大介・篠原和夫 (2023) : 静岡の自然と文化～県東部を中心に～. 静岡大学地域創造教育センター.

○学術論文 (査読有)

Auer, A., Kamei, A., and Endo, D. (2022). Sanbe volcano: Long-term evolution of an arc magmatic system. Island Arc, 31, e12453.

④GGN (グローバル ジオパーク ネットワーク)・APGN (アジア太平洋 ジオパーク ネットワーク)・JGN (日本ジオパークネットワーク) 活動事業

GGN、APGN、JGN などをはじめとしたジオパーク同士のネットワーク活動に積極的に参加し、貢献することが求められている。

ジオパーク活動の特徴の一つであるジオパーク間のネットワーク活動や世界ジオパークネットワーク (以下、「GGN」という。)、アジア太平洋ジオパークネットワーク (以下、「APGN」という)、日本ジオパークネットワーク (以下、「JGN」という。) への活動に参加し、調査研究の情報共有や相互交流を通じ当ジオパークの情報発信や情報収集を行い、ネットワーク交流や研究活動の強化を図るものである。

件名	対応 (時期)
GGN (グローバル・ジオパークネットワーク) 事業への参加	<ul style="list-style-type: none">○GGN Newsletter への寄稿○GGN 出版物 “Geoparks and Oceans” への寄稿と掲載 (国連「持続可能な開発のための海洋科学の10年」連携企画)○年次報告書 2021 “Annual Report” の提出○4月21日 開催ユネスコ/GGN イベント 新規認定世界ジオパーク歓迎イベントのオンライン参加○6月8日の「世界海洋の日」に関連する GGN 作成動画 ” Global Geoparks Network in the World Oceans Day” への 素材提供と記事掲載○11月15日～25日 ユネスコ主催 ジオパーク集中研修へのリモート参加(辻研究員)

件名	対応（時期）
<p>APGN（アジア太平洋ジオパークネットワーク）事業への参加</p>	<p>○9月4日～11日開催 APGN 大会・シンポジウム出席(朝日研究員・石田主幹) ・約 400 名のジオパーク関係者が参集 会場は、タイ、サトゥーンジオパーク。 ・朝日研究員がセッションでの口頭発表 「世界文化遺産の科学的価値へのジオパークの貢献」 ・日本ジオパークネットワークが事例発表 SDGs トレイン ツナグデンシャの取り組み事例発表 ・国内ジオパーク関係者（室戸・南紀熊野・鳥海山・飛島、桜島錦江湾）との情報交換も行う。 *首長は9月議会と重複したため不参加</p>
<p>日本ジオパークネットワーク(JGN)事業への参加</p>	<p>○4月 25 日、26 日 室戸ユネスコ世界ジオパーク訪問、講演およびユネスコ現地審査に関する情報交換（朝日研究員） ○5月 21 日 JGN運営委員会出席 ・会場 千葉幕張メッセ ・参加者 金刺部長・辻研究員 ○5月 26 日 JGN通常総会および理事会・ジオパーク議連総会出席 ・会場 東京参議院議員会館 ・参加者 菊地理事、金刺部長 ○7月4日 JGC主催 ジオパーク基礎研修会参加(リモート参加) ○10月 21 日～23 日 全国大会 ・会場 石川県白山手取川ジオパーク ・参加者 金刺部長、石田主幹、辻研究員、塚本主任、杉森主任、齊藤主任 ・ポスターセッションで SDGs トレイン ツナグデンシャ 紹介 ・土屋晴樹ジオガイドが教育功労で全国表彰を受賞 ・基調講演・分科会参加 ・ブース展示 物販等 ○11月 21 日～23 日 日本ジオパークネットワーク全国研修会 ・会場 宮城県 栗駒山麓ジオパーク ・参加者 金刺部長 ・全国 42 地域のジオパークから関係者 70 名が参加 ・テーマ ジオパークにおける地質遺産の保全と活用 サイト保全計画作成研修・名勝伊豆西南海岸保存活用計画事例を紹介。 ○2月 17～19 日 第 10 回南紀熊野ジオパークフェスタ ・会場 南紀熊野ジオパーク（和歌山県新宮市他）</p>

件名	対応（時期）
	<ul style="list-style-type: none"> ・参加 上泉事務局長、石田主幹、辻研究員 ・太平洋の黒潮に面した国内ジオパークの連携会議 今後の相互連携・交流事業について協議 ・太地町役場でイルカ関係について情報交換及び町内視察 ○3月10～12日 国際海洋ゴミシンポジウム in 隠岐 ・会場 隠岐ユネスコ世界ジオパーク ・参加 石田主幹 ・海洋ゴミについての国際シンポジウム。ゴミ問題を考える事例講演やイベントの他、フィールドワークに参加。隠岐や佐渡との相互連携・交流事業について協議。
国内・海外からの視察・研修等受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○NHK 国際放送 “NHK World” の番組 “Grand Detectives” に出演，伊豆半島の成り立ちとワサビ栽培の関係を解説。 ○世界申請準備中の韓国国内ジオパーク，蔚山地域の市民向けにジオパークの概念と伊豆半島の実践例を紹介するテレビ番組に出演，国際的な能力強化活動を実施した。（7月） ○6月28日 長野県飯田市議会行政視察 市議会議員、職員 11名 ジオリア視察、ジオパーク活動について ○6月30日 滋賀県大津市議会行政視察 市議会議員2名 ジオリア運営、組織統合 ○7月15日 西予市議会産業建設常任委員会行政視察 市議会議員、職員 8名 ジオリアの運営について・展示内容について ○2023年3月8日～10日 アフリカ ガーナからの視察対応 ・来訪目的 ビジターセンター活動、運営体制等を視察。

○評価と改善

- ・2018年以降の採択研究では、毎年、審査を受けた科学論文が刊行されるようになった。制度変更が奏功しており、ジオパーク再認定を支える根拠の1つになっている。
- ・広く広報を実施してきた結果、研究助成を前提として、先端研究者が海域を含む伊豆半島で世界レベルの研究を行う動機付けの1つになってきた。
- ・審査を受けた論文刊行など学術助成一辺倒にすることなく、専任研究員が自ら審査論文刊行を進める。その端緒としての国際会議での研究速報は継続して実施できている。
- ・GGN・APGN・JGN活動には積極的に参加し、ユネスコ世界ジオパークとしての責務を果たしている。
- ・研究助成制度については、事前の広報が不十分であったことから、助成への応募件数が少なかった。このため、新年度は年度当初に募集を開始し、学術助成制度が伊豆半島での世界レベルの新しい科学知見創出に貢献できるよう告知、周知を徹底する。
- ・ネットワーク活動については、新型コロナウイルスによりオンライン等での対応を余儀

なくされたが、今後、行動制限を伴わない、いわゆるウィズコロナとなることから、域内のジオパーク活動の関係者、パートナーシップを締結して取り組む事業所や研究機関、当法人の正会員や賛助会員、サポーターとの連携を密に、新たなネットワークの構築によりジオパーク活動が真に地域に根付いた活動となるような取組を支援する。

- ・国内ジオパークネットワーク活動においても、当ジオパーク活動を積極的に情報発信して交流を深め、課題であるジオパークブランドの向上につなげる。

8. ジオパーク地域連携事業

○事業概要及び目的等

地域住民がジオパークの視点を理解し、自主的かつ継続、継承することがジオパーク活動の基礎であるとの認識のもと、これまで培った地域や域内事業者との連携を一層強化させ、ジオパーク活動によって持続可能な地域づくりに貢献する。

こども絵画展示コンクールやパートナーシップ連携事業に取り組んでいる。

○事業実施状況

項目	概要												
こども絵画 コンクール	テーマは「私たちの住む伊豆半島ジオパーク」 伊豆半島のすごいこと、誰かに教えてあげたいことを表現 ○応募開始 8月 応募期限は9月15日 ○域内小中学校より70作品の応募 サントムーン柿田川、三島信用金庫が協賛 ○10月24日 審査会 優秀作品決定												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>最優秀作品</th> <th>所属学校・氏名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学低学年</td> <td>伊豆のわさび</td> <td>函南町立西小 佐伯宥美さん</td> </tr> <tr> <td>小学高学年</td> <td>大よど小よど</td> <td>伊東市立大池小 山梨素楽さん</td> </tr> <tr> <td>中学性</td> <td>燃ゆる空と心</td> <td>西伊豆町立西伊豆中 山本理沙さん</td> </tr> </tbody> </table>	区分	最優秀作品	所属学校・氏名	小学低学年	伊豆のわさび	函南町立西小 佐伯宥美さん	小学高学年	大よど小よど	伊東市立大池小 山梨素楽さん	中学性	燃ゆる空と心	西伊豆町立西伊豆中 山本理沙さん
	区分	最優秀作品	所属学校・氏名										
	小学低学年	伊豆のわさび	函南町立西小 佐伯宥美さん										
	小学高学年	大よど小よど	伊東市立大池小 山梨素楽さん										
中学性	燃ゆる空と心	西伊豆町立西伊豆中 山本理沙さん											
○巡回展の開催(現在巡回展開催中)													
ジオリア→ゲートウェイ函南→サントムーン柿田川→ジオテラス →黄金崎クリスタルパーク→ながいずみ観光交流協会→さんしん熱海 ストリートギャラリー→さんしん下田ストリートギャラリー													
地域活性化事業	パートナーシップ連携事業 ○韮山反射炉(伊豆の国市) <ul style="list-style-type: none"> ・7月9日 反射炉の日イベントにてワークショップを開催 ・2月25日 反射炉の技術交流に関する講演会にパネル展示 ○静岡ガス(株) 本年度のテーマは「ジビエ」 <ul style="list-style-type: none"> ・4月: 第1回ジオぱく 獣害の被害とジビエ料理 ・8月: 第2回ジオぱく ジビエの栄養学を学ぶ ・11月: 第3回ジオぱく 天城トレッキング ・12月: 第4回ジオぱく ジビエの理解とジビエ料理 												
可視化事業	○6月: 新デザインのジオポロシャツ作製、販売 構成15市町にちなみ15色のポロシャツ1,650着販売												

	<p>現在もジオリア等で販売中</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SDGs トレイン 7月21日 伊豆高原駅で運行式典開催 伊豆急ホールディングスとの連携事業 域内でのSDGs活動の取組をストーリー化し紹介 電車利用者へのジオパークと域内SDGs取組事業者の活動を情報発信している。 ○ いずっぱこジオトレイン（再掲） ○ 解説板の整備（市町対応事業） ○ 各ビジターセンターによる情報発信事業・ユネスコロゴ掲示 ・天城ビジターセンターリニューアル ・函南ビジターセンター展示物作成 ○ のぼり旗配布
--	---

○評価と改善

- ・ 韮山反射炉（伊豆の国市）と2021年12月に結んだ連携協定に基づき、当法人の研究者による連携、反射炉の日におけるワークショップの出店や韮山反射炉での講演会におけるパネル展示など、世界遺産とジオパークの連携をアピールすることができ、10月のユネスコ世界ジオパーク再認定審査の現地審査でもユネスコ間プログラム連携事業で高い評価を得た。
- ・ こども絵画コンクールは、夏前の学級閉鎖などの影響で応募数は70点（中学生15点、4～6年生33点、1～3年生22点）と低迷したため、今後は、早めに応募を開始して特に中学生の応募数を増やしていく。
- ・ 静岡ガスとの連携イベントは、ジオパーク活動に新たな参加者層を取り込む機会となっている。また、SDGsトレインで紹介した伊豆半島での取組事例については、ジオカフェ等でフォローアップを行っていく。

9. ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業

○事業概要及び目的等

2018年にユネスコ世界ジオパーク認定時に示された9つの改善勧告は、当ジオパークに示された課題であり、構成自治体、地域住民とともに取り組むことが求められていた。

勧告への対応については、審査時に明確な根拠資料を示した。また、勧告対応は今回の審査のために行う取組ではなく、以後も継続して取り組むべき活動であることから、評価を受けた取組についてはさらにその活動を励行して、地域主導の継続した取組として定着するよう努めていく。

再認定審査は10月10日（月）～13日（木）にかけて実施された（参考資料「ユネスコ現地再認定審査報告」参照）。審査員に説明した再認定対応事業の概要は以下のとおり。

①再認定対応事業

取組事業	世界認定再審査時の説明概要
基本計画・行動計画 2021-2025 英語版の作成	伊豆半島ユネスコ世界基本計画・行動計画 2021-2025 の翻訳および編集にあたり、80 ページ超の英語版を作成、印刷および web での公開。英語版は審査時に提供した。 この計画が統合後の組織に継承されていることも説明した。
文化財のデータベース化	2022 年 5 月、伊豆半島における国宝および重要文化財の英語版リストを完成。民俗文化財や市町指定の文化財も含む全 134 件の文化財につきデータベース化を行い、英語版をウェブ公開した。大多数の文化財につき英文での描写があるが、無形文化財情報にまだ課題が残ることと併せ、前回勧告での文化財に関する網羅的な目録を報告した。
無形文化遺産に関する講話の実施及び新聞記事の投稿	無形文化遺産の目録の充実や保全プログラムの円滑な実施を図るため、ジオガイドや地域住民を対象に無形文化遺産の理念、制度について研究員が講演や静岡新聞へのコラム投稿を通じ、啓発を行った。
天城ビジターセンターにおける文学展示の制作	伊豆に関する文学・芸術の目録化と将来的な利活用の促進が勧告されていることを受け、天城峠を舞台とする文学作品に関する常設展示を、7 月より天城ビジターセンターで開始した。
法人のガバナンスに関する情報の蓄積・公開	英語版のウェブサイトの大幅なアップデートを実施し、組織の意思決定過程、法人統合の意義と経緯、中期戦略、単年度の事業計画、および財務情報を英語で公開した。
内陸部でのツアー造成	○松崎町池代地区、賀茂農林事務所、ジオガイド協会との協働により、コンパクトで持続的なわさび沢ツアーの造成に着手した。 ○中伊豆での E-bike ツアーを造成した。(前述 6-⑤参照)

②国際交流・協力事業（ユネスコ関係は 7-④参照）

1) インドネシアチレトゥー-パラブハンラトゥユネスコ世界ジオパーク交流

2019 年 11 月 インドネシア 西ジャワ州政府及びスカブミ県幹部による表敬訪問。

静岡県庁にて両者の代表(菊地 伊豆半島ジオパーク推進協議会長及びソマントリ県次官)、陪席人の川勝平太静岡県知事及びハマミ西ジャワ州知事の署名による、「伊豆半島ユネスコ世界ジオパークおよびチレトゥー-パラブハンラトゥユネスコ世界ジオパークの2者間の協力に関する覚書き」が発効。

この覚書を受け、本年度は以下の交流事業に取り組んだ。

○8月 チレトゥー-パラブハンラトゥジオパーク学術顧問メガ教授主催の「ジオ多様性の夏の学校」において、朝日研究員が基調講演。

○9月 タイで開催のアジア太平洋ジオパークシンポジウムに両者が参加。この中で特に、朝日研究員とメガ顧問とでこれまでの取組を総括、残された課題であるオンラインによる学校間交流を来年実施することで合意。また「2者間の協力に関する覚書き」も2024年以降も更新して継続する方向性で合意した。

○両ジオパークとも、年内に再認定現地審査が行われることから、情報や審査用資料の交換を行って、再認定に向け相互に支援した。

○評価と改善

- ・再認定対応では、審査員より、「極めて精緻で包括的」な対応であるという高い評価を受け、世界再認定を実現することができた。よって、目標は達成できた。また、今回の再認定に当たっては、法人統合の意義を明示することが一つの課題であったが、この点を含め、法人情報に関する英語での発信を改善し、アカウントビリティが向上したことは中期的にも法人の財産となったと考えられる。
- ・世界再認定は、世界認定以来の5年間に亘るプログラムの多角化や成果物の蓄積によってはじめて可能になる点に留意する必要がある。今後も毎年予算と人員を措置し、次の再審査に向けた不断の努力を要する点を明記したい。
- ・改善点としては、再認定に向けての情報や成果の蓄積は中期的な視野に立ち、着実に執行すべき性格の事業であるが、今回の再認定の過程では審査の数か月前まで情報の蓄積の不足や、対応の遅れが見られる分野が散見された。次期再認定に向け、より計画的で堅実に事業を執行することが必要である。また、次の再認定に向け、ボトムアップ・草の根の市民参画の促進や、法人の幹部職員の性的不均衡の是正など、組織の全体的な変革を求められる可能性に留意を要する。
- ・このほか、チレトゥーパラバハンラトゥ世界ジオパークとの交流は、引き続きコロナ禍の影響で直接の往来が困難な状況にあるものの、担当者間の良好な人間関係は持続しており、2023年度以降、往来の再開後の再活性化が期待できる。

10. ジオリア管理運営事業

○事業概要及び目的等

ジオリアは伊豆半島ジオパークの中央拠点として2016年4月にオープンした施設であり、常駐するジオガイドによる訪問者への普及啓発活動、半島内のサイトの見どころの紹介と解説、教育活動の拠点として活用されている。

基本計画に基づき、ジオリアの常設展のほか企画展の開催（年3回程度）、イベントを開催し、ジオパークを楽しみながら学べる環境づくりを行い、半島域内の回遊を高める企画展示とジオガイドによる案内業務を実施している。案内業務は、伊豆半島ジオガイド協会に業務委託をし、引き続き、コロナ対策に万全を期しつつも、来館者へのジオパークの中央拠点としての情報発信を行っている。また、各ビジターセンターとのネットワークの構築を強化し、来訪者への情報発信を適切に行い、域内来訪者のジオパークの情報発信拠点

として来館者の満足度の向上と域内への回遊の促進を図っている。

○事業実施状況

項 目	概 要
企画展 実施状況	<p>【常設展示】 チレトゥーパラブハンラトウユネスコ世界ジオパーク紹介展示</p> <p>【企画展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6月16日～7月19日 小型・中哺乳類展示 1,460名来場 ○7月20日～8月31日 大型哺乳類展示 1,707名来場 ○9月1日～10月4日 昆虫の擬態展示 1,023名来場 ○10月5日～10月25日 伊豆の祭りと芸能 ○1月19日～3月14日 開国のロストシティ（伊豆石の産業史） <p>※1月29日に展示に関連したオンライン講演会を開催</p>
ワークショップ 屋外イベント （コロナ対応型）	<ul style="list-style-type: none"> ○8月21日 押し葉ワークショップ（静岡大学と共催）7名 ○8月28日 修善寺和紙づくり体験（静岡大学と共催）7名 ○12月25日 海洋プラスチックを使ったクラフトづくり17名 ○3月12日 珪石を溶かしてガラスの雫を作る10名 ○3月12日 伊豆の石で焼く石焼き芋11名 ○3月25日 山の自然観察11名 <p>○通年 伊豆軟石で何掘るか・リレー方式の屋外石堀体験 希望者はジオリアでハンマーとタガネを借りて中庭に置かれた伊豆石を少しずつ掘る体験型リレーイベント開催中。 出張ジオリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5月4日 岩絵の具で武士をえがく（伊豆市資料館） ○2月23日 富士山いただきマルシェ（楽寿園）82名参加
ビジターセンター 情報交換会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○6月1日 第1回ビジターセンター情報交換会開催 （会場・修善寺総合会館） 参加者は行政担当・ビジターセンター運営者スタッフ24名。 昨年度の連絡会で課題として「ビジターセンターの認知度向上」をテーマにワークショップを開催した。参加者からはこうした情報交換会の定期的な開催の意見が多く出され、引き続き、各ビジターセンターのネットワーク活動の強化により、ジオパークの地域での情報発信拠点への強化に取り組むことを確認した。 ○12月14日 第2回ビジターセンター情報交換会開催 会場はコミュニティながいずみ内長泉ビジターセンター 長泉ビジターセンター活動、ジオツアー

○開館以後のジオリア入館者数の推移 当初の年間目標入館者数は1万人。

	年間入館者数	摘要
2016年度	12,858名	
2017年度	14,484名	
2018年度	25,799名	ユネスコ世界認定
2019年度	19,424名	
2020年度	5,926名	コロナ感染拡大（一時閉館）
2021年度	7,315名	コロナ対策継続
2022年度	12,530名	

○評価と改善

- ・ジオリアでは、団体の受け入れを再開し、コロナ禍により開催頻度を減らしていたワークショップをコロナ前の開催頻度である年間6回開催するなどした。また、石焼き芋を用いた「食」にまつわるイベントを実施したほか、出張ジオリアとして新たに伊豆市資料館と連携したワークショップも開催した。この結果、ジオリアでは、2022年度の入館者数は3年ぶりに1万人を上回った。
- ・今後は、ジオリアの企画展を年間計画に基づき開催していくほか、常設展示内容についても見直しを行っていく。また、施設の集客増及び自主財源の確保のためジオリアのテラスでの飲食提供を2023年の夏をめどに開始する予定である。
- ・域内には15のビジターセンターがあり、それぞれのビジターセンターが地域に根差した活動を行っていることもユネスコ世界ジオパークの再認定審査での評価を受けたところである。本年度から活動を本格化したビジターセンターネットワーク構築のためのビジターセンター担当者の情報交換会は、域内への活動周知や活動の情報発信など有意義であったことから、引き続き定期的に開催したい。

11. その他連携事業の実施

○事業概要及び成果等

観光地域づくり法人として、様々な団体と事業連携を行った。

① 伊豆半島道路ネットワーク会議

伊豆縦貫道と国道、幹線市町道を含む地域全体のあるべき姿を検討し、短期・中長期を見据えた実施計画を策定することを目的としている。

② 日本風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」推進会議

伊豆半島全域を対象とする日本風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」について、国交通省河川国道事務所等と連携し、伊豆の道が住民や訪れる人にとって“なごみの道”になるよう、周遊の道の魅力づくりなどに取り組んでいく。

③ 環駿河湾観光交流活性化協議会

環駿河湾観光交流活性化協議会に負担金を支出し、各種事業を展開している。

④ その他の関係団体との連携

以下の関連団体に参加し、連携して事業を実施した。

- 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会
- 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会 伊豆地域会議
- 静岡県コンベンション推進協議会
- 静岡県東部地域コンベンションビューロー
- 伊豆地域インバウンド交通連絡協議会
- 駿豆線沿線地域活性化協議会
- 「昇龍道」連絡調整会議
- 伊豆の国市観光戦略会議
- 函南町農泊推進協議会
- 伊豆交通圏タクシー準特定地域協議会
- 伊豆半島道路ネットワーク会議
- 伊豆道の駅ネットワーク協議会
- 伊豆半島景観協議会
- ふじのくににすみかえる推進本部
- 賀茂地域ふれあい事業推進協議会
- 静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合
- 太平洋岸自転車道推進静岡地区協議会
- 静岡県サイクルスポーツの聖地創造会議
- 狩野川周辺サイクル事業推進協議会
- 静岡県東部スポーツ産業振興協議会
- 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議東部地域会議
- 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議伊豆半島地域会議
- 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ゆかりの地 伊豆・富士山周遊促進連絡協議会
- 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」伊豆の国市推進協議会
- 賀茂キャンパス活用推進委員会
- ジャパン・マウンテンバイク・カップ実行委員会
- 伊豆の国市狩野川利用調整協議会
- ポケモンGO連携プロジェクト実行委員会
- サンフロント21懇話会

伊東市ジオパーク推進会議

II 庶務の概要

1. 会員に関する事項 (令和5年3月31日現在)

(1) 会員の異動数

区分	会 員 数		増減
	令和4年3月31日現在	令和5年3月31日現在	
正 会 員	92	107	15
賛 助 会 員	23	157	134
協 力 会 員	3	3	0
合 計	118	267	149

2. 役員等に関する事項 (令和5年3月31日現在)

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	分 属
会長(代表理事)	豊岡 武士	三島市長
副会長(理事)	菊地 豊	伊豆市長
副会長(理事)	小林 秀樹	伊豆急ホールディングス株式会社取締役社長 社長執行役員
理事	齊藤 栄	熱海市長
理事	小野 達也	伊東市長
理事	松木 正一郎	下田市長
理事	岸 重宏	河津町長
理事	岡部 克仁	南伊豆町長
理事	深澤 準弥	松崎町長
理事	仁科 喜世志	函南町長
理事	金野 祥治	東海自動車株式会社代表取締役社長
理事	伍堂 文康	伊豆箱根鉄道株式会社代表取締役社長
理事	紅野 正裕	沼津商工会議所会頭
理事	大沢 秀光	伊豆の国市商工会会長
理事	加藤 昌利	東伊豆町観光協会会長
理事	加藤 賢二	静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合理事長
理事	小山 真人	静岡大学教授
理事	仲田 慶枝	伊豆半島ジオガイド協会会長
理事	植松 和男	(一社) 法人美しい伊豆創造センター専務理事
理事	林 田 充	(一社) 法人美しい伊豆創造センター常務理事
監事	稲田 精治	三島市観光協会会長
監事	田 中 豊	下田商工会議所会頭

附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。